

橋町の見どころ

まちの歴史シリーズ ③④

橋町HP <https://tachibana-net.jp> **歴史・史跡** クリック

発行：橋町まちづくり推進協議会
ふるさと部会
発行日：令和7年4月1日
責任者：國平 安治
原稿作：宮下 正博
事務局：橋公民館 22-3884

今月号の案内者は

片白区長 諸岡 隆裕さん

私たちの郷土を治めていた橋氏。

今回のエピソードは、

きんなり
橋公業の

おうしゅうかつせん かねとう
奥州合戦と兼任の乱

タッパ君とミサエちゃん、よろしく。



これまでのあらすじ

橋町の主人公、公業 鎌倉で活躍！！

- ・公業が讃岐の武士団を率いて先陣を務める
- ・平家滅亡後、公長が敵大将の処刑を命じられる

★① エピソード③平泉へ出陣

きんなり
では、公業さんよろしくね

この年、私は24歳（著者推定）。

2月になり、殿は「義経が平泉へ逃亡したのを藤原氏がかくまったのはけしからん」と難癖をつけました。7月になると、全軍を3軍に分け、自ら出陣なさいました。

私は、本体の隊列に加わりましたが、先頭は、あの「坂東武士の鑑」と称えられた畠山重忠殿。

私は、頼朝殿のあと。後ろづめの隊列90番目に並んで行軍しました。

注1 頼朝は、奥州を治めていた藤原氏を倒すことで、天下統一を完成することがねらい。4月に藤原氏が義経を自害に追い込んだにも拘わらず奥州へ出陣し、吾妻鑑には幕府の立場で「奥州征伐」と書かれています。

★② エピソードその④大河兼任の乱

おうしゅうかつせん
奥州合戦は、8月には平泉を占拠して9月に藤原氏を滅亡させましたよ。しかし翌年1月に、藤原氏の仲間だった大河兼任が反乱を起こしたので、私たちが討ち取りに行ったのですが・・・。

でんれい
一人目の伝令は、私たち4名が戦死、1名が逃亡と報告していて・・・。

その時、殿は・・・

「そうではあるまい。あいつが、そうやすやすと死ぬわけがない」
「その報告はさかさまで、公業が逃げたんじゃ」

と！！

●登場する人を紹介するね



父親の公長さん



兄の公忠さん



弟の公業さん

●1185年に平家が滅びて鎌倉時代に突入。

この後は、義経の奥州逃亡や、それをかくまった奥州藤原氏討伐のための遠征などが続くよ。この間、公業は、弓始めやお宮への参列などの行事の場面に、何度も登場

●3つ目のエピソード★①は1189年。義経死亡後、平泉への出陣の隊列に登場。戦いの様子は「奥州合戦」で調べてね

●4つ目のエピソード★②は、翌年。

おおかわかねとう
大河兼任の乱で「公業が逃げた」と騒動がおきるんだ。このいきさつは詳しく書いてあるね。

●1193年に「曾我兄弟の仇討ち★③事件」がおこるけど、ここに名は出てこないね

★翌19日、別の使者が鎌倉に到着して・・・



その使者はこう言ったんだ。

「兼任が男鹿島に向かった時、
公業殿は逃げ出したが、地元の
由利中殿は、兼任到来を知ってすぐさま
戦をしかけて命を落とされました」と。

注①男鹿島（おがしま）は今の秋田県男鹿半島。
後に橘氏は、ここを領地することになります。



へ～。じゃあ頼朝さん、予想が
あたったのね。どうして？

それはのう、公業がそうやすやすと
殺されるような奴と思えんからのう。

奴は一筋縄では、いかんところがある

注②とっていてな。チョット気にし
て、**油断せず**にいるんじゃよ。

注②この部分は筆者の予想です。

吾妻鑑は鎌倉幕府の側から書かれたものです。頼朝を褒めたたえ
ると同時に、幕府の立場の正当性を常に主張して書かれています。
また頼朝は、冷徹に政権の安定に向けて手を打っていきます。弟
たちさえも殺すことを辞さないのですから、部下を冷ややかに見
ていたと想像できます。

では、公業さんは大ピンチネ



そうなんですヨ。

一大事ですから、急虚、鎌倉に戻りまし
た。そしてこう言ったんです。

「私が兼任殿に攻められた時、
敵は大軍、味方は少人数でした。
そこで一旦は逃げ、策略を練って
戦おうとしたところ、

『あいつは卑怯にも逃げた』
と味方の御家人が悪口を
言っていると聞いたので、
急いで駆け付けてきました。」



頼朝さん、それで許したの？

そう。次の様なおふれを出させた。
「兼任軍が自分の領土を通ったから『チャ
ーンズ!』とばかりに、手柄を立てようと、
勝手に戦っちゃだめ。

そんなことすれば、敵に弁当をふるまうよ
うなもんだから。

ちゃんと鎌倉からの派遣軍と地元御家人が
力を合わせて、作戦を立てて戦いなさい」とね。

褒美に、このヤクルトはあげないけど。



で、その後は？

まちの人々は、「由利中さんの行動は、一
見褒められるように見え、一方の公業さん
は卑怯者のように見える」

「だけど、大軍の敵には、やっぱり、よく
よく考えて行動すべきだったんだなあ」と
公業さんを見直したんだって。



★③曾我兄弟仇討ち

- ・1192年、年初の「御的始」に公業さんの名が出てきます。
- ・翌年5月、仇討ちでは、忠臣蔵などと共に有名な「曾我兄弟仇討ち」事件がおきます。
- ・頼朝が催した富士のすそ野のまき狩り大会で、「親の仇！」と曾我十郎祐成と五郎時致の兄弟が仇討ちを果たしたもので、『曾我物語』として伝わっています。

でも、この、頃あちこちで行われたまき狩りに、公業さんや公忠さんの名は出てこないよ。中心的な閣僚でなかったからかなあ？

お兄ちゃん（公忠）と関係してくる事になるけど、詳しくは次回以降に・・・



※今月号の出典はすべて吾妻鑑（鎌倉時代の歴史書）です。役者さんと公長親子は宮下が加工しました。

今回ご紹介した時代は『鎌倉時代』でした（今月号＝1185年以降が鎌倉時代）